

平成29年度みやぎ移住・定住推進連携事業

みやぎ県北の力を合わせると 移住者が増えるプロジェクト

発表：特定非営利活動法人 おおさき地域創造研究会
代表理事 白旗成典

みやぎ県北の力を合わせると 移住者が増えるプロジェクトの事業内容

1. 担当者が仲良くなる話し合いの場を持つ(ステークホルダ会議の開催)
メンバー: 県北7市町の担当者、みやぎ暮らし相談センター移住相談員、みやぎ移住サポートセンター相談員、宮城県担当者などの情報交換の場
2. 移住者にみやぎ県北の生活情報をわかりやすく届けたい
各市町の空き家・仕事・コミュニティーの情報発信シート(A4版)を入れ「あなたの移住ファイル」として活用していただく
3. 県北共通のPRグッズ(例チラシ・のぼり・Tシャツ等)を作製し一体感を出す
4. 7つの市町が連携した移住相談会を開催する

大崎市・加美町・栗原市・色麻町 登米市・美里町・涌谷町 7つの市町がプロジェクトに参加を表明

7つの市町が連携すると

より幅の広い移住提案を行うことが出来る、しかも良い知恵も集まってくる

隣のまちの動きを感じながらの活動

「みんな頑張っているなあ・・・」なんだか不思議と「チカラが沸いてくる」と・・・

みやぎの未来を共につくってくれる人(移住者)をふやすため

県北セブンの物語が始まった

1.担当者が仲良くなる話し合いの場を持つ(ステークホルダ会議の開催)

担当者同士が 仲良くなる「話し合いの場」をもつ

なぜなら、移住相談は人の一生に関わるしごと
すべては、良い知恵、良い提案の為 隣のまちの動きを感じ、今のたち位置を知る
だから支援する我々県北セブンが 仲良くなることが必要だと考えた
その為の、顔の見える形の「話し合い」みんないい顔でのスタートでした

1回目 H29年8月29日 県北連携会議開催



と姫り ら状か歳和、

移住にいらっしやい 県北7市町 推進連携会議

大崎市など県北7市町の担当者が集まり、移住や定住の促進策を考える「移住・定住推進連携会議」の初会合が29日、同市で開かれた。今後、連携して移住者の獲得などに取り組んでいくことを確認した。

会議は移住支援に関わるNPO法人おおさき地域創造研究会（同市）が県の助成金を受け立ち上げた。各市町の取り組みを紹介し合い、NPO法人ふるさと回帰支援センター（東京都）から助言があった。県北は交通アクセスが整備され、移住先としての好条件を備えているとの評価も進めていく。

一方で、「地元出身者でも地元の優良企業を知らず、『職場がないはず』というイメージだけで仙台市に流れるケースもある」と情報発信の課題などが指摘された。

県のみやぎ移住サポートセンターによると、昨年度県内移住した59人のうち県北7市町へは計4人（6・8％）で、仙台市が38人（64・4％）を占める。

同研究会の白旗成典代表理事は「市町が互いの足りないところを補完し合いながら、移住者を受け入れる関係をつくりたい」と話し、共同パンフレットの製作なども進めていく。

連携して移住促進に取り組んでいくことを確認した初会合

きょうの天気

市協 協定書

が括 日 活交

東京の相談窓口との 連携の必要性を肌で感じる

東京の相談窓口、
「みやぎ移住サポートセンター」「みやぎ暮らし相談センター」
への訪問
「東京」×「県北」の連携をするためには、
お互いを信頼することが大事だと気付く

新幹線では
県北セブン同士の会話
今までに無かった
身近なお隣さんになろう！！ 6

2回目 H29年10月2日 県北セブン・みんなで東京出張

最新の情報を
教えてもらう



伝えて欲しい事
を伝える

移住相談の内容
などのレクチャー



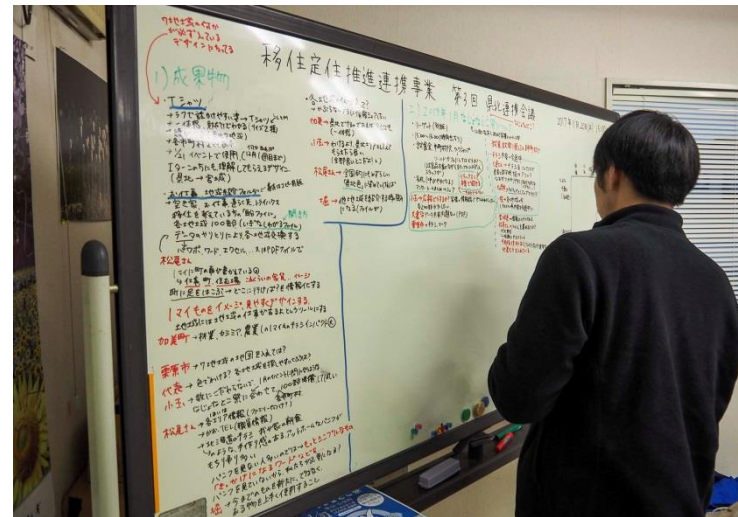
ふるさと回帰センター見学・講座の様子

互いに連携できる
ところの模索



ふるさと回帰センターの高橋理事長との名刺交換

3回目 H29年11月20日 県北連携会議 & ぷち交流会



2.移住者にみやぎ県北の生活情報をわかりやすく届けたい

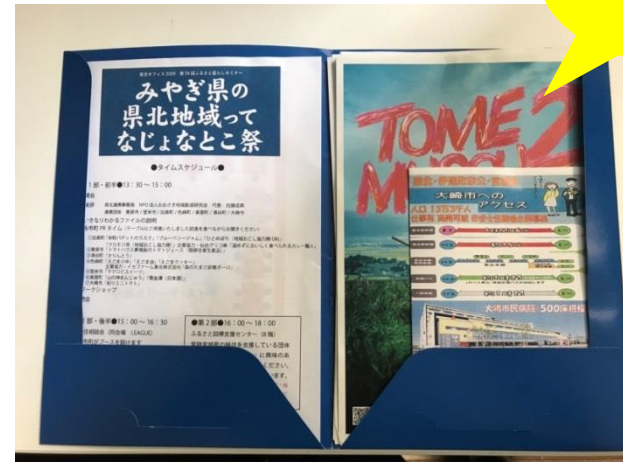
いきなりわかるファイル

「あなたの移住ファイル」は「いきなりわかるファイル」となりました

仕事情報



地域情報



サポート情報



3. 県北共通のPRグッズ(例チラシ・のぼり・Tシャツ等)を作製し一体感を出す

県北の一体感とチカラを PRするグッズで表現

Tシャツ・のぼり旗

大崎に移住した
デザイナーも仲間に



今までの連携とPRグッズを
活かす場を作れないか？



みやぎ県の県北地域って なじょなどこ祭 2018年1月21日開催 ！

4.7つの市町が連携した
移住相談会を開催する

定員100名様
限定企画

みやぎ県の 県北地域って なじょなどこ祭

1 / SUN
21
13:30 から
15:30 まで

東京・有楽町
東京交通会館 6階
LEAGUE 有楽町

当日参加も歓迎！

同時開催
15:00～16:30
移住相談会
回帰支援センター
(同会場8階)
にて



【なじょなどこ】…宮城の方言で「どんな」を「なじょな」「なんじょな」と言います。例：なんじょなどごなんだべや〜？（どんなところなのかな〜）

宮城県北地域って

今の！

「なじよなとこ」か知ってもらいたい！

集客の目標は

協力して企画作り連携する
ことで意識が高まる

100名集めたいなあ～

なんと

総勢88名



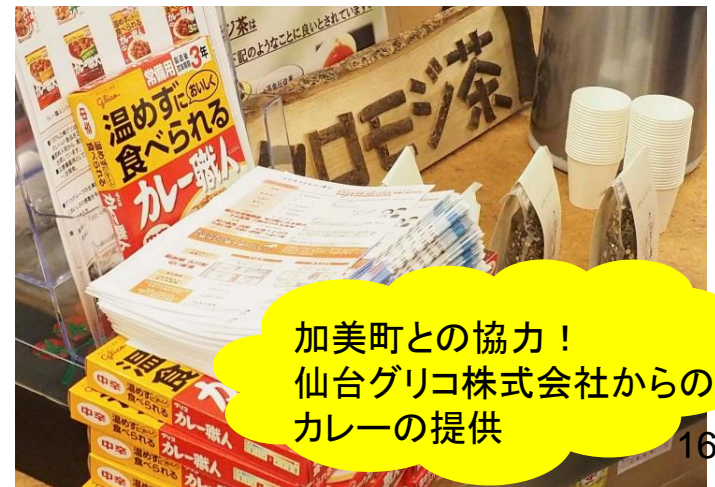
第1部 前半 各市・町のPRからスタート

お揃いのTシャツを着ておもてなし



そして今回は、企業からの協力を頂きました。
イセファーム東北株式会社
仙台グリコ株式会社

各テーブルに、各市町のうまいもの



第1部 後半4人一組でワークショップ！ 各テーブルにスタッフも入って



どのテーブルも大盛り上がり



第1部 後半 個別の移住相談会



色麻ブースに
イセファーム東北株式会社
も同席！連携が企業さんにも。



移住相談ブース以外の
テーブルでも相談会



各7つの市町その他
・宮城県
・みやぎ移住サポートセンター
もブース出展

相談ブースが
いっぱい

他の移住希望者
との情報交換

自分にはなかった
移住視点

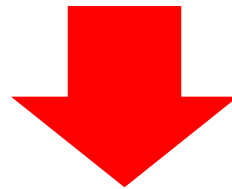
みんなの満足度が高まる相談会



この形、いいかも！
これまでに無かった移住相談のスタイル

連携から生まれたものや気づき

- ・互いの情報共有や課題の解決
- ・東京窓口からのアドバイスの必要性
- ・市町以外の人に関わることの重要性
- ・各市町の互いの移住スキルの共有



移住に取り組んでいる仲間と繋がって、
一緒に一つの目標達成に向かう強み

この事業をもう少しで終わりますが・・・

自分が出れることは何かを考えて行動していきませんか！

人が**減少する社会**の行きつく姿を想像し、

そうならないための**知恵を出し合う**。

1人でできなければ、**周りの人と一緒にやる**。

県北連携は小さな一歩ですが、

繋がることで「移住者が増える」可能性を感じています。

さらには、**様々なセクターが協力し合う**ことで移住者を増やして参りまじよう。